

私の本棚

同志社大教授

太田 肇氏

覚に過ぎないというわけだ。

たしかに日本人が必ずしも集団主義的でないことは納得できる。しかし日本社会が集団主義的かどうかは著者も明言していない。チームワークや「タテ社会」と集団主義を混同している面もある。そのためか、日本人の行動様式が集団主義的だという認識はやはり捨てきれない。

そもそもメンバーに同調を求める独特の「空気」や、閉ざされた社会で抜け駆けを許さない雰囲気を実証研究の俎上（そじょう）に載せるのは難しい。日本人、そして日本社会が特殊か否かを考えさせてくれる好著であり、事例も豊富で読みやすい。

▶「『集団主義』という錯覚」 (高野陽太郎著)

日本人といえば集団主義というのが常識である。自我が確立されていないので自己主張できず、集団のためなら個人の犠牲をいとわない。社会にお



けるいじめや企業間の不公正な取引も、集団主義に根ざすと言われてきた。

そうした常識に対し著者はデータや資料を用いて反証する。企業間の系列には実体がなく、戦国武将も自分のために決断し戦った、などだ。要するに日本人＝集団主義は錯